

令和5年度 かりゆし諸見保育園の自己評価

テーマ「子ども達が安心して生活できる保育園づくりを目指して」

○当園が目指す保育とは？

- ・日々の子ども達の姿から保育者同士で語り合い、一人一人の思いを大切に、「たのしい！」「はっけん！」「やってみたい！」を叶える保育を紡ぎ出すこと。
- ・子ども達が安心感を持って自己発揮し、友だちや保育者と生活や遊びを通して経験を積み重ねていける保育。

○その保育を実現するための課題

- ・子ども理解（未熟な存在から有能な学びてとしての子ども理解）
- ・子どもの育ちを保護者と共有する

○課題改善に向けての取り組み

- ・ポートフォリオ、ボードフォリオへの取り組み
- ・公開保育の取り組み（保幼小連携）
- ・0,1,2歳児の保護者参加の行事（親子ピクニック）
- ・法人勉強会で外部講師依頼（※1、※2、※3）
- ・室内、園庭の環境作り



※1



※2



※2



※3



※3



※3

○課題改善の中から見えてきたこと、令和6年度の取り組みへのバトン

令和4年度から引き続き、ポートフォリオ、ボードフォリオの取り組みを続けてきた。前年度の課題としてポートフォリオファイルの全体像のイメージが出来ていない事が分かった為、保護者の皆さんがポートフォリオファイルのイメージができ積極的な関わりがもてるよう、ポートフォリオが閲覧できる場所を作った。しかし、一部のポートフォリオファイルのみの閲覧となっている為、今後はより多くの保護者の皆さん閲覧してもらえるような方法を考え実行していきたい。

7月には、近隣の幼稚園、小学校教員、保育園関係者等を招いて公開保育を行った。子ども達のイキイキと活動する姿を見ていただき好奇心、探求心が育まれている様子を伝える事ができた。意見交換会では活動報告を行った後グループに分かれてそれぞれの状況を伝え合った。今回の公開保育をきっかけに交流を深める事ができた。安心して子ども達を送り出していく上でも幼、小学校の先生方と交流できたことはとても貴重な機会となった。

法人勉強会では外部講師を年2回招いた（※9月：汐見俊幸先生※1 ※1月：羽地知香先生※2）9月の研修は子育て・保育講演会で保護者の参加も受け付けた。子ども達の「いま」を充実させ、できるだけではなく子どもの人格を尊重しプロセスを大事にすることで「子どもが自ら育っていく姿」をお手伝いする事の大切さを学んだ。1月の研修は童心に返り、自然環境の中に身を置くことで遊びの中から得られる事の多さに気づく事ができた。非認知能力が育つことで認知能力が育つ・子どものあそびには意味があるんだと職員自身体験することで「こども理解」につながる事ができ両園職員共に学びを深める事ができた。自然物を活かした保育にも意識が向くようになってきた。木村歩先生には9月、12月、1月と計3回来園していただき、室内外の環境について学ぶ事ができた。（※3）職員一人ひとりが子ども達の気持ちを大切にし、安全に楽しく遊べる環境作りを考える事で積極的に構成から作製に取り掛かる事ができた。実際に作った物を子ども達が使用したり、遊んだりする姿を見ると自分達で手掛けた分喜びも大きく、子ども達も職員も研修を重ねる度変わりゆく環境に満足する事ができた。木村歩先生の研修では環境が子ども達の遊びに大きく影響する事に気付かされ改めて環境の大切さを学ぶ事ができた。

令和6年度は令和5年度同様に「対話」から子どもたちとの信頼関係を深め 遊びの展開や生活を充実させていくためにも「共感と対話 よく観るよく聴く」をテーマにおき、子どもたちが自ら育つため、子ども理解を深めるために職員間での「対話」を大切にしながら「よく観る目」と「よく聴く」力を磨いていきたい。